

保育園の紹介

くまの・みらい保育園

こんな子どもに育てたい

「感謝と思いやりのある、自主的な行動のとれる子に」

「三つ子の魂百まで」ということわざやアメリカの哲学者ロバート・フルガム氏の「人生の生きるすべての智慧（ちえ）」は、幼稚園の砂場で学んだ。」という言葉にもあるように、人生をどのように生きるかという「鍵」は、乳幼児期の大人との関わり方に大きく影響されます。

くまの・みらい保育園では、0歳から6歳の子どもたちが生きる力を持ち、たくましく成長していく基礎をしっかりと培えるよう取り組んでいます。

■生活は「あそび」そのもの

当園は、一人ひとりが好きな「あそび」をじっくり遊びこめる環境を大切にし、同時にそれぞれの年齢、発達にあった「あそび」であるかということにも気を配っています。

年齢が高くなるにつれて、友だちと楽しく遊ぶためには、約束を守らなくてはならないことや、ちよつぱり我慢しなくてはならないことなどを「あそび」の中で自然に学んでいます。



■ビオトープは不思議がいっぱい

開園当初から保護者の皆さんのお力を借りて、園庭にどんぐりの木や天然芝を植えたり、ビオトープを作ったりしています。

ビオトープは、子どもたちの一番のお気に入りの場所です。メダカの赤ちゃんを見つけた

り、やごがトンボになる瞬間に出会ったりして、子どもたちの好奇心はどんどん膨らんでいきます。1〜2歳児の子どもたちも興味津々で、そーっと覗いています。

年長児は、「こつちに来てごらん。」と見えやすいところを教え、あげ、カエルを捕まえている子には、「あとでビオトープに帰してあげようね。」と、小さな命を大切にすることも伝えてくれています。

■自己肯定感を育む保育

年長児のお当番さんは、毎日、給食の下ごしらえを手伝い、食事の準備から片づけまで一生懸命取り組んでいます。



保育士や友だちから「ありがとう。」と感謝され、小さい子どもたちからのあこがれの的となり、人の役に立つ喜びを感じています。

こういう小さな経験を繰り返すことによって、自分に自信を持ち、自分が好きになります。

その気持ちを育むには、大きくなってからではなく、赤ちゃんの時からしっかりと可愛がり、「あなたがいてくれて、ありがとう。」という気持ちで関わっていくことが大切だと思います。

生きていくうえで何より大切な自己肯定感を育んでいけるよう、私たちは感謝の気持ちを持って日々の保育をしています。



あとかき

消費税率が8%に上がる。普通家庭で消費税増加分の負担が年間約6万円と試算されたようだ。

月平均5千円の家計負担はたいへんだ。

この消費税率値上げの条件として景気が良くなり給料も上がることが前提であったと思う。

株価も上がり、為替も円安に振られて景気が良くなったようにマスコミは取り上げる。

しかし、地方にはその恩恵がまだ届いてないように感じる。

このような状況下での消費税率の値上げは無謀のように感じるの私だけだろうか。

藤本哲智

次の定例会は

12月11日(水曜日)
開会を予定しています

議会だより題字

世木田江山さん

表紙写真

運動会のような
くまの・みらい保育園

※Mebius(メビウス)は、熊野町出身の姉妹音楽活動グループです。